

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様に信頼される施設づくりを理念とし週一度の昼礼や月一度の研修を通じ理念の共有をしている。	週に1回昼礼を開くと共に月に一度研修を開くことが、理念の共有につながっている様子がうかがえます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム近隣への散歩や地域のボランティア、幼稚園、保育園の方に来て頂き交流をしています。	地域の農家に協力して頂き、稲刈りをされたり、ボランティアや園児の訪問により交流を深めている様子がうかがえます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりや会議に参加させて頂き法人全体での地域貢献に努め理解を得ています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での評価や意見については話し合いを行い法人全体で共有し取り組んでいる。	参加者は行政、家族、地域住民と協力が得られているが、開催頻度が3カ月に1回となっており、議題が画一的になりやすい事が課題と感じられます。	議題内容を地域やホームのニーズに沿って考えられるようテーマを決め、年間で計画的に実施してみる等工夫されてみてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム単独で接したり連絡を密に取ることは少ないですが法人全体として連携をとっている。	法人本部として、行政との関わりがあり、その強みを活かして運営に反映されている様子がうかがえます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置をし研修会などで正しく理解出来るよう取り組んでいる。	法人として多種多様な事業形態があり、その中で各種委員会の設置及び研修会の開催などにより、理解を深めるための努力をされている様子がうかがえます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が主となり研修会などで周知徹底をしている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修」に参加し理解を深め必要に応じて対応出来るよう体制を整えている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時の際、説明を行いご理解を得て納得して頂いています。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には個々に話し合いをしたり対話とふれあいなどを活用し意見を聞いています。ご家族や外部の方には推進会議や面会時に意見や要望を聞くように取り組んでいます。	ボイス委員会を設置しており、単に苦情を受けるだけでなく、職員が積極的に意見収集をするなど工夫して取り組まれている様子がうかがえます。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員の意見や提案、問題点は随時聞き対応出来るよう取り組んでいます。	職員の意見や提案を聞く会議が設けられており、管理者からも日々の中で意見収集するなど努力されている様子がうかがえます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の目標を決め個々の働くモチベーションの向上に繋げるなど理事長と職員の信頼関係構築に努め運営を図っている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修参加により職員の質の向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や施設見学にて同業者との交流をさせて頂き、サービスの質の向上に努めています。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所され、不安の中生活されている為ゆっくりと話を聞き少しでも安心出来るよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始後の連絡は密に行い本人だけでなく家族が安心出来るよう関係作りに努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前には家族と利用者との話し合いの中で他のサービスを含めた説明をしご理解をしながら入所決定を行っています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事全般を利用者と職員が一緒に行い信頼関係を築き楽しく笑顔で生活を送って頂くよう心掛けています。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は密に来て頂くよう声をかけご家族、知人などとの時間を大切に、来園時は日常生活を報告し、安心して頂けるようにしています。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院など馴染みの場所を継続して頂けるようご家族に協力を求め外出して頂いています。知人の面会時は次回も来て頂けるよう声掛けしています	なじみの関係を維持するために、ご家族の協力や地域の方々の面会時など、次につながるよう積極的な声かけを実践されています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活での雰囲気作りを十分気を付け一人一人が孤立することなく生活して頂けるよう声掛けし、利用者同士助け合いながら生活出来るよう努めています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了前にもご家族と十分な話し合いをし、法人内へ受入れさせて頂く意向を伝え出来る限りの対応を行い支援出来るよう努めています。		

Ⅲ そ					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「対話とふれあい」の時間を作り利用者の気持ちを読み取り把握に努めている。悩みがある様に見受けられる場合家族等と話し合い悩み解決に向け努めています。	その人を尊重した丁寧な対応がなされており、ご家族の意向も加味したうえでケアの実践がされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	個人の生活スタイルは出来るだけ継続出来るよう支援し、ご家族や本人との話し合いから把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のラジオ体操や挨拶だけでなく入浴時等も身体観察を常に行い把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には状態の変化など報告を常に行い、利用者や家族の心情を理解し介護計画を作成している。	ケアの実践においては家族とも良く話し合いがなされ、丁寧に関わられている様子です。しかし、計画書の内容がやや画一的であると感じられます。	具体的な表現を用いて、計画書を作成し、情報の共有をしやすくするための工夫をされてみてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を介護記録に記入し職員間で情報の共有をしています。月一度のホーム内の会議でもその内容について話し合いをし介護計画に取り入れ対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々変わる状況に応じ、ご家族のニーズに対し良いサービスが出来るよう他の関係機関にも協力を頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園、幼稚園児、ボランティア活動だけでなく地域の方との交流を大切にし、行事に参加するなどの取り組みをしている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望を尊重しご家族の協力のもと自由に納得のいく病院に行き、他の医療機関の往診も行っている。	利用者・ご家族の意向を反映し、それぞれ希望される医療機関との連携を図っておられます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	グループホーム内には看護師は不在であるが法人内には24時間常駐しており緊急時の対応や健康管理等の相談はしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や医療機関との連携を図り早期退院に努めている。本人だけでなく家族の意向を聞き相談対応をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との話し合いを十分に行い状態に合った対応が出来る体制を整えている。	重度化しても、法人内の特養に転居するなど、ご家族との話し合いの上ですめています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し事故や急変時の対応に備えている。法人全体でも酸素ボンベ使用法の研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一度の消防訓練にて利用者、職員が対応出来るよう努めています。	ホーム内で月に1回の防災訓練を実施されています。地域の災害時の避難場所ともなっているので、非常食の備蓄もされています。	

IV					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が一人一人に合った言葉遣いや対応等に配慮している。	月に1回の頻度で認知症研修を実施しており、利用者の尊厳に配慮した言葉かけが実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で十分話し合いをし、希望等を聞く時間を作っています。日頃から利用者の考え思いを言えるような雰囲気作りに徹しています。		
38	15	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人が自分の時間を大切に過ごしています。一人ひとりのペースを乱すことなく過ごせるよう支援しています。	利用者一人一人の役割分担があり、ホームの中で生きがいを感じながら生活されている様子がうかがえます。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は利用者の行きつけのお店にご家族協力のもと行かれたり、化粧品などはご家族や職員と買いに行き対応している。		
40	16	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については利用者と職員で話し合い考えています。調理、盛り付けも一緒に行い食事全体を楽しめるようにしています。	利用者と一緒に準備から後片付けまでを行っています。出来る部分を活かし、出来た時の達成感も得られる言葉かけを実施するサポートを実践されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養バランスを考え一人ひとりの食事量、水分量を確認しその日の身体状況の把握に努めています。食事形態等も必要に応じ対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、夕食後の歯磨きは声掛けを十分に行い習慣づけています。出来ない方にも付き添いを行い介助しております。		

43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人の自尊心を大切にし声掛けには十分気を付けています。夜間の失敗なども声掛けなどで減らしおむつを出来るだけ使用しない様努めています。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個人の排便状況を毎日確認し記録しています。水分補給や食事の献立で配慮すると共にホーム内での運動にも取り組んでいます。</p>		
45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回、午前中の中の入浴となっていますが夏場など汗をかく時期には週4回にするなど希望に合わせて日の入浴も行っています。</p>	<p>午前中を中心に週3回入浴されています。利用者の希望に応じて仲の良い利用者同士での入浴もサポートされています。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人の生活習慣に応じ寝る前の対話なども大切にしています。夜間、目が覚めたり等で起きられた際はお茶などを飲んで対応し不安取り除くような配慮をしています。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋も確認し目的などを理解したうえで主治医との話し合いをし、状態の確認に努めています。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者が生活の中で喜びや楽しみを持つよう野菜作りや洗濯たたみ、調理など個人の生活リズムを大切にしています。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の状態に合わせて日光浴や散歩、ドライブに出かけています。地域の皆様にも協力頂き、稲刈りなどにも参加させて頂き季節を感じて頂いています。	希望に沿った外出支援を提供されています。地域の方との関係も良好であり、稲刈りに出かける等昔取った杵柄を活用できる場面も作っておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理出来る方は、五千円程度所持して頂きショッピング時やご家族との外出時に使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族との電話は希望に合わせて支援しています。出来ない方には職員が代行し対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロア片隅に畳とこたつを設置しました。利用者と職員がゆっくりとした時間を共に過ごし生活出来るよう対応しました。	フロアはゆったりとしており、くつろげるリビングをつくるため、畳の空間を作っています。環境面に力を入れている様子がうかがえます。	畳の空間の利用率が伸び悩んでいる様子です。床面をあげたり、そこで落ち着くための備品や取り組みを検討するなど工夫をされてみてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やこたつを使い個人の時間を大切にしている。本や新聞その他個人が好む物を置きくつろいで頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人が居心地良く過ごせるように家族と相談しながら個々の好む家具や物を配置し支援している。入所後も本人の希望に合わせて対応している。	家具の持ち込みは自由であり、ご本人のホームでの暮らしの検討とご家族との話し合いを行った上で希望に沿うよう努めておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内には、手すりを取り付けられフロア全体も広く安全に移動し生活出来るようにしている。職員は個々の状態に合わせて自立に向けた取り組みも行っています。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない